

8月19日に東京都市大学付属中学校企業研修実施 ラリーというお仕事



2010年8月19日、当社にて東京都市大学付属中学校の学生8名が参加しての企業研修が開催されました。これは同校が学生の進路開拓の為に実施している年間プログラム「キャリア・スタディ」の一環として実施しているもので、労働の現場を実際に見ることで職業理解を深めるために実施されているということです。

まずは座学として当社の業務内容の説明に始まり、「ラリーってなあに?」という基本的な事柄に関して、各自が調べてきたことを発表・ディスカッションが行われました。

次に本物のグループNラリーカーやピットでの作業風景の見学が行われ、ラリー車と普通の街乗り車との違いや、自動車の整備・修理という職業の実務に関する理解を深めました。

今回の研修は「働くこと」の一例を学ぶということで実施されたもので、それを受け入れた我々としては、お役に立てたのなら非常に喜ばしいことだと思いましたが、研修の趣旨は別として我々として非常に強く感じたのが、「イマの子たちって心底クルマに興味ないんだな」ということです。時代の移り変わりという共通点と共に、クルマをとりまく環境への危機意識をあらたにさせられる、我々としても貴重な体験でした。



車内に張り巡らされたロールケージ、身体を強烈に拘束するバケットシートやフルハーネス、自動消火装置など、いままで見たこともない装備が満載のラリーカーを物珍しげに見入る研修生たち。また、座学では自動車の基本構造や駆動方式の違いといった事柄や「ラリー」という言葉の語源や歴史などに関する学習も行われた。